

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 1

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であり、その有用性が認められたものである。

b 一般用医薬品は、市販後にも安全性の確認が行われる仕組みにはなっているが、有効性の確認が行われる仕組みにはなっていない。

c 購入者が、一般用医薬品を適切に選択し、適正に使用するためには、薬剤師や登録販売者が関与し、専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの適切な情報提供を行うことが不可欠である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 2

医薬品のリスク評価に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a 医薬品の効果とリスクは、薬物ばく露時間とばく露量との積で表現される用量－反応関係に基づいて評価される。

b 治療量を超えた量を単回投与した後に毒性が発現するおそれが高いことは当然であるが、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合もある。

c 医薬品については、食品と同等の安全性基準が要求されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	誤

問3

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a 健康補助食品（いわゆるサプリメント）の中にはカプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状で発売されているものも多いが、誤った使用法により健康被害を生じた例は報告されていない。

b 医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品は法的にも、また安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。

c 「機能性表示食品」は、疾病に罹患していない者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨（疾病リスクの低減に係るものを除く。）を表示するものである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

問4

次のa～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を（ a ）するために、人に（ b ）用いられる量で発現する医薬品の有害かつ（ c ）反応」とされている。

	a	b	c
1	正常化	通常	意図しない
2	正常化	最大	重篤な
3	正常化	通常	重篤な
4	活性化	通常	意図しない
5	活性化	最大	重篤な

問5

アレルギーに関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a アレルギーは、人体の免疫機構とは関係なく引き起こされる反応である。
- b 基本的に薬理作用がない添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）とはならない。
- c 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品がアレルゲンになりやすくなり、思わぬアレルギーを生じることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問6

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 一般用医薬品の不適正な使用には、使用する人の誤解や認識不足に起因するものがある。
- b 疾病の根本的な治療がされないまま、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和する対処を漫然と続けていても、有害事象を招く危険性が増すことはない。
- c 小児への使用を避けるべき医薬品であっても、大人用のものを半分にして小児に服用させれば、有害事象につながる危険性は低い。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問7

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a 一般用医薬品は作用が著しくないため、乱用の繰り返しも、慢性的な臓器障害等までは生じない。

b 適切な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがある。

c 医薬品の販売等に従事する専門家は、必要以上の大量購入や頻回購入を試みる不審な購入者等には慎重に対処する必要があり、積極的に事情を尋ねたり、状況によっては販売を差し控えるなどの対応を図ることが望ましい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

問8

相互作用に関する次の1～5の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1 医薬品の相互作用とは、複数の医薬品を併用したときに、医薬品の作用が増強する場合のことをいうのであって、作用が減弱する場合には相互作用とはいわない。

2 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

3 副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。

4 食品と医薬品の相互作用は、しばしば「飲み合わせ」と表現され、食品と飲み薬が体内で相互作用を生じる場合が主に想定される。

5 外用薬や注射薬であっても、食品の摂取によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。

問9

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 小児は、大人と比べて血液脳関門が未発達であるため、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しにくい。
- b 小児は、大人と比べて身体の高さに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- c 乳児の疾患においては、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめるのが望ましい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問10

次の記述の( )にあてはまる字句として、正しいものを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として( )以上を「高齢者」としている。

- 1 60歳
- 2 65歳
- 3 70歳
- 4 75歳
- 5 80歳

問 1 1

高齢者に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 肝臓や腎臓の機能が低下していることがあり、その場合には一般に医薬品の作用が弱く現れやすい。
- b 持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。
- c 喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

問 1 2

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組みとして、血液－胎盤関門がある。
- b ビタミンA含有製剤のように、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものがある。
- c 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 1 3

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）等が関与して生じると考えられている。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- c プラセボ効果は、主観的な変化だけで、客観的に測定可能な変化として現れることはない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

問 1 4

医薬品の品質に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 一般用医薬品は、購入後すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされるべきである。
- b 医薬品は、適切な保管・陳列をすれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。
- c 品質が承認された基準に適合しない医薬品、その全部又は一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品は、販売が禁止されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 15

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a 一般用医薬品の役割として、「軽度な疾病に伴う症状の改善」、「生活の質（QOL）の改善・向上」、「健康の維持・増進」等がある。

b 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲は、乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、その範囲は限られてくることにも留意される必要がある。

c 体調の不調や軽度の症状等について一般用医薬品を使用して対処し、一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化した場合であっても、継続して使用することが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤



問 16

一般用医薬品販売時に行うコミュニケーションに関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 購入者等が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用しようとするよう、働きかけていくことが重要である。
- b 家庭における常備薬として医薬品を購入する者に対しては、実際に使用する際に、改めて添付文書等に目を通すよう促す必要はない。
- c 医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるかを確認する必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

問 17

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 医薬品は、人体にとって本来異物であり、治療上の効能・効果とともに何らかの有害な作用（副作用）等が生じることがある。
- b 副作用は、それまでの使用経験を通じて知られているもののみならず、科学的に解明されていない未知のものが生じる場合もある。
- c 医薬品が「両刃の剣」であることを踏まえ、医薬品の販売に従事する専門家を含め、関係者が医薬品の安全性の確保に最善の努力を重ねていくことが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 18

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a サリドマイド訴訟とは、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

b スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

c サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、1979年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 19

HIV訴訟に関する次の1～5の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1 HIV訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

2 HIV訴訟の和解を踏まえ、製薬企業に対し、医薬品の副作用報告が初めて義務付けられた。

3 HIV訴訟の和解を踏まえ、国は、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備を行った。

4 国及び製薬企業を被告として提訴されたが、大阪地裁と東京地裁で和解が成立した。

5 HIV訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策の一つとして検査や献血時の問診の充実が図られた。

問20

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※CJDとはクロイツフェルト・ヤコブ病をいう。

- a CJDは、プリオン不活化のための化学的処理が十分行われないうまま流通したヒト乾燥硬膜を、脳外科手術で移植された患者に発生した。
- b CJDの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- c CJD訴訟は、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設される契機のひとつとなった。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問 2 1

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a かぜは単一の疾患ではなく、医学的には、かぜ症候群といい、通常は数日～1週間程度で自然寛解する。

b インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであり、感染力は強いが重症化することはない。

c 総合感冒薬は、ウイルスの増殖を抑えて体内から取り除くことにより、かぜの諸症状の緩和を図るものである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 2 2

かぜの症状の緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウ及びマオウの両方を含むものを次の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1 半夏厚朴湯
- 2 小青竜湯
- 3 麦門冬湯
- 4 桂枝湯
- 5 小柴胡湯

問 2 3

一般用医薬品の解熱鎮痛薬に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 痛みや発熱を一時的に和らげる対症療法ではなく、その原因を根本的に解消することを目的としている。
- b かぜ薬と併用すると、同じ成分又は同種の作用を持つ成分が重複して、効き目が強く現れすぎたり、副作用が起こりやすくなったりするおそれがある。
- c 頭痛の症状が現れないうちに予防的に使用することが適切である。
- d 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を抑える成分が配合されている。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 2 4

解熱鎮痛薬に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a アスピリンは、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- b アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- c イブプロフェンは、消化管粘膜の防御機能を高めるため、消化管に広く炎症を生じる疾患の既往歴がある人への使用に適している。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	誤

問 2 5

眠気を促す薬に関する次の 1 ~ 5 の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1 プロモバレリル尿素が配合された医薬品を使用した後は、乗物や危険を伴う機械類の運転操作を避ける必要がある。
- 2 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等が原因であり、抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬の適用対象ではない。
- 3 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがあり、特に15歳未満の小児ではそうした副作用が起きやすいため、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は避ける。
- 4 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として一時的な睡眠障害の緩和に用いられるだけでなく、慢性的に不眠症状がある人も対象としている。
- 5 桂枝加竜骨牡蛎湯は、体力中等度以下で疲れやすく、興奮しやすいものの神経質、不眠症、小児夜なき、夜尿症、眼精疲労、神経症に適するとされる。

問 2 6

カフェインに関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- b カフェインの血中濃度が最高血中濃度の半分に低減するのに要する時間は、通常の成人と比べ、乳児では非常に長い。
- c 安全使用の観点から留意すべき作用に、胃液の分泌を抑える作用がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	誤

問 2 7

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に配合される成分に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a ジフェニドール塩酸塩は、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている。
- b スコポラミン臭化水素酸塩は、肝臓で徐々に代謝されるため、抗ヒスタミン成分と比べて作用持続時間が長い。
- c 乗物酔いの発現には不安や緊張などの心理的な要因による影響も大きく、それらを和らげることを目的として、鎮静成分が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 28

小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 配合される生薬成分は、いずれも古くから伝統的に用いられており、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用が無い。
- b 漢方処方製剤としては、柴胡加竜骨牡蛎湯、抑肝散、小建中湯等がある。
- c ゴオウは、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

問 29

鎮咳去痰薬に配合される成分とその主な作用・目的に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

	成分	主な作用・目的
a	コデインリン酸塩	－ 痰の切れを良くする
b	クロルフェニラミンマレイン酸塩	－ ヒスタミンの働きを抑える
c	メチルエフェドリン塩酸塩	－ 気管支を拡張させる
d	メチルシステイン塩酸塩	－ 中枢神経系に作用して咳を抑える

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)



問 3 0

鎮咳去痰薬に配合される生薬成分に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a マオウは、交感神経系への刺激作用によって、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- b ナンテンジツは、知覚神経・末梢運動神経に作用して咳止めに効果があるとされる。
- c セネガは、糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、1日最大配合量がセネガ原生薬として1.2g以上を含有する製品では、使用上の注意において成分及び分量に関連する注意として記載されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	正

問 3 1

口腔咽喉薬・含嗽薬及びそれらに配合される成分に関する次の1~5の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1 アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合される。
- 2 噴射式の液剤は、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- 3 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調整した濃度が濃いほど高い効果が得られやすい。
- 4 トローチ剤は、口中に含み、噛まずにゆっくり溶かすようにして使用されることが重要である。
- 5 含嗽薬の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。

問 3 2

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 制酸成分を主体とする胃腸薬については、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるため、炭酸飲料等での服用は適当でない。
- b センブリが配合された健胃薬は、刺激が強いので、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用するとよい。
- c 消化薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

問 3 3

胃腸薬に含まれる成分のうち、胃粘膜保護・修復作用を期待して配合される成分として、次の a ~ d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1 ~ 5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a ピレンゼピン塩酸塩水和物
- b ロートエキス
- c アルジオキサ
- d スクラルファート

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 3 4

瀉下薬及びそれに配合される成分に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a ヒマシ油は、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられており、比較的瀉下作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。

b 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。

c ビサコジルが配合された内服薬では、胃内で分解されて効果が低下したり、胃粘膜に無用な刺激をもたらすのを避けるため、腸内で溶けるように錠剤がコーティング等されている製品（腸溶性製剤）が多い。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

問35

胃腸鎮痛鎮痙薬及びそれに配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 抗コリン作用を有する成分を含有する医薬品どうしが併用された場合、抗コリン作用が増強され、排尿困難、目のかすみや異常な眩しさ、眠気、口渇、下痢等の副作用が現れやすくなる。
- b パパペリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとされる。
- c ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	正

問36

浣腸薬及びそれに配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 薬液を注入した後すぐに排便を試みると、薬液のみが排出されて効果が十分得られないことから、便意が強まるまでしばらく我慢する。
- b 坐剤で使用される炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- c 半量等を使用した注入剤は、残量を冷所で保存すれば、感染の恐れもなく、再利用することができる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	正	正
5	誤	正	誤

問 3 7

次の記述に該当する生薬を下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示し、この成分が配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。

- 1 センソ
- 2 ジャコウ
- 3 ゴオウ
- 4 ロクジョウ
- 5 リュウノウ

問 3 8

高コレステロール改善薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 大豆油不飽和化物（ソイステロール）は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- b ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- c パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質（LDL）産生を高める作用があるとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

問 39

貧血及び貧血用薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 一般的な症状として、疲労、動悸、息切れ、血色不良、頭痛、耳鳴り、めまい、微熱、皮膚や粘膜の蒼白（青白くなること）、下半身のむくみ等が現れる。
- b 鉄分の摂取不足を生じても、ただちに貧血の症状は現れないが、持続的に鉄が欠乏すると、ヘモグロビンが減少して貧血症状が現れる。
- c 鉄製剤を服用すると、便が白くなることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

問 40

循環器用薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされている。
- b 日本薬局方収載のコウカは、ニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされている。
- c 三黄瀉心湯は、体力中等度以上で、のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状等に適するとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

問 4 1

痔及び痔疾用薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a 痔の対処には、痔を生じた要因となっている生活習慣の改善を図ることは重要ではなく、痔疾用薬の使用のみでよい。

b 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分のほか、瀉下・整腸成分等が配合されたもので、外用痔疾用薬と併せて用いると効果的なものである。

c 直腸粘膜には知覚神経が通っていないため、直腸粘膜にできた内痔核は自覚症状が少ない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

問 4 2

次の表は、ある外用痔疾用薬に含まれている成分である。

この外用痔疾用薬に含まれている成分とその配合目的・作用に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1000mg 中

プレドニゾロン酢酸エステル 0.5mg

リドカイン 30mg

アラントイン 10mg

ビタミンE酢酸エステル（トコフェロール酢酸エステル） 25mg

a プレドニゾロン酢酸エステル — 炎症や痒みを和らげる

b リドカイン — 局所の感染の防止

c アラントイン — 血管収縮作用による止血

d ビタミンE酢酸エステル（トコフェロール酢酸エステル） — 末梢血管の血行を改善

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 4 3

次の a ~ c の ( ) に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

( a ) は、体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適するとされる。

( b ) は、体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）、頻尿に適するとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

( c ) は、体力中等度以下で、疲れやすくて尿量減少または多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ、痒み、夜尿症、しびれに適するとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

a   b   c

- 1 六味丸 猪苓湯 竜胆瀉肝湯
- 2 猪苓湯 竜胆瀉肝湯 六味丸
- 3 竜胆瀉肝湯 猪苓湯 六味丸
- 4 六味丸 竜胆瀉肝湯 猪苓湯
- 5 猪苓湯 六味丸 竜胆瀉肝湯



問 4 4

婦人薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a 内服で用いられる婦人薬には、複数の生薬成分が配合されている場合が多いが、比較的作用が穏やかであり、他の生薬成分を含有する医薬品（鎮静薬、胃腸薬、内用痔疾用薬等）が併用された場合でも副作用が起こることはない。

b エストラジオールは、長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌や脳卒中などの発生確率が高まる可能性がある。

c 女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる温清飲や四物湯はいずれもカンゾウを含まない漢方処方製剤である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

問 4 5

内服アレルギー用薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a フェニレフリン塩酸塩は、副交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって充血や腫れを和らげることを目的としている。

b ジフェンヒドラミン塩酸塩は、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。

c トラネキサム酸は、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的としている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

問 4 6

内服アレルギー用薬に配合される成分について、抗ヒスタミン成分ではないものを次の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1 アゼラスチン
- 2 ケトチフェン
- 3 メキタジン
- 4 クレマスチンフマル酸塩
- 5 グリチルリチン酸

問 4 7

鼻炎用点鼻薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- b クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵）等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合される。
- c 点鼻薬は、局所（鼻腔内）に適用されるもので、全身的な影響を生じることはない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

問 4 8

点眼薬に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 結膜嚢に適用するものであるため、通常、無菌的に製造されている。
- b ソフトコンタクトレンズは、防腐剤（ベンザルコニウム塩化物等）などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こすおそれがあるため、装着したままの点眼は避けることとされている製品が多い。
- c 点眼の際には、薬液が確実に目の中に入るように注意しながら容器の先端を睫毛（まつげ）につけ、1 滴ずつ点眼する。
- d 点眼後は、数秒間、眼瞼（まぶた）を開けて、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込み効果的とされる。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、c)    5 (b、d)

問 4 9

皮膚に用いられるヨウ素系殺菌消毒成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- b ヨウ素の殺菌力は、アルカリ性になることで増強する。
- c ヨードチンキは、皮膚刺激性が強く、粘膜（口唇等）や目の周りへの使用は避ける必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	正	誤	正

問50

皮膚に用いられるステロイド性抗炎症成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎の緩和を目的とするものであり、体の一部分に生じた湿疹・皮膚炎等の一時的な皮膚症状には使用しない。
- b 末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示すので、水痘（水疱瘡）、みずむし、たむし等又は化膿している患部の症状を悪化させる恐れがあり、使用を避ける必要がある。
- c ステロイド性抗炎症成分の一つとして、インドメタシンがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

問51

みずむし・たむし用薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 湿疹とみずむし等の初期症状は類似していることが多く、湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用すると、かえって湿疹の悪化を招くことがある。
- b ミコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- c シクロピロクスオラミンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

問52

口内炎及び口内炎用薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a セチルピリジニウム塩化物は、患部からの細菌感染を防止することを目的として配合される。
- b 口内炎や舌炎が長期間にわたって症状が長引いている場合には、口腔粘膜に生じた腫瘍である可能性もある。
- c シコンは、ムラサキ科のムラサキの根を基原とする生薬で、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

問53

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a ニコチンを有効成分とする禁煙補助剤は、妊婦又は妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性では、胎児又は乳児に影響が生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家においては、禁煙補助剤の使用により禁煙達成が困難なほどの重度の依存を生じている場合には、ニコチン依存症の治療を行う禁煙外来の受診を勧めることも考慮に入れるべきである。
- c 禁煙補助剤（咀嚼剤）の有効成分であるニコチンは、コーヒーや炭酸飲料などの食品を摂取すると口腔内が酸性になるため、吸収が促進される。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

問54

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a ビタミンB<sub>1</sub>主薬製剤は、チアミン塩化物塩酸塩やフルスルチアミン塩酸塩等が主薬として配合され、筋肉痛・関節痛（腰痛、肩こり、五十肩など）の症状の緩和等に用いられている。

b ビタミンD主薬製剤は、アスコルビン酸、アスコルビン酸ナトリウム又はアスコルビン酸カルシウムが主薬として配合され、しみ、そばかす、日焼け等による色素沈着の症状の緩和に用いられる。

c ビタミンB<sub>12</sub>は、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素であり、貧血用薬等に配合されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

問 5 5

漢方処方製剤に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 防風通聖散は、構成生薬としてダイオウを含む。
- b 清上防風湯は、体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるものにきびに適するとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- c 黄連解毒湯は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなもの的高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症に適するとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

問 5 6

次の記述に該当する生薬を下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。

- 1 サイコ
- 2 ブシ
- 3 カッコン
- 4 ボウフウ
- 5 レンギョウ

問 57

消毒薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

a ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム、トリクロロイソシアヌル酸等の有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

b クレゾール石鹼液は、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

c エタノールのウイルスに対する不活性効果は、イソプロパノールよりも低い。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	正
5	誤	誤	正



問 5 8

次の a ~ c の ( ) に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

有機リン系殺虫成分の殺虫作用は、( a ) を分解する酵素と ( b ) に結合してその働きを阻害することによる。これらの殺虫成分は、ほ乳類や鳥類では速やかに分解されて排泄されるため毒性は比較的低い。ただし、高濃度又は多量にばく露した場合（特に、誤って飲み込んでしまった場合）には、神経の異常な興奮が起こり、( c )、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

a   b   c

- 1 アセチルコリン 可逆的 縮瞳
- 2 アセチルコリン 不可逆的 縮瞳
- 3 アセチルコリン 不可逆的 散瞳
- 4 アドレナリン 不可逆的 縮瞳
- 5 アドレナリン 可逆的 散瞳

問 5 9

尿糖・尿タンパク検査薬に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a  出始めの尿では、尿道や外陰部等に付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、中間尿を採取して検査することが望ましい。
- b  尿糖・尿タンパク同時検査の場合、早朝尿（起床直後の尿）を検体とするが、尿糖が検出された場合には、食後（2～3時間）の尿について改めて検査して判断する必要がある。
- c  尿糖値に異常が生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿のように高血糖を伴わない場合もある。

a   b   c

- 1 正 正 正
- 2 正 誤 誤
- 3 誤 正 誤
- 4 誤 正 正
- 5 正 誤 正

問 6 0

妊娠検査薬に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものである。
- b 尿中 hCG の検出反応は、hCG と特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けない。
- c 絨毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくても検査結果が陽性となることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	誤	正